

令和元年度 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
10月20日	良	播種期、出芽期はともに平年より2日早かった。草丈は平年より長く、葉数、茎数はともに多かった。以上のことから、現在の作況は良である。
5月20日	良	積雪期間は平年より26日短かく、雪腐病の発生はわずかであった。しかし少雪時の低温により葉先が枯れる被害が発生し、起生期の茎数は平年より少なかった。起生期以降の天候は概ね順調に推移したため生育は旺盛となり、草丈は平年より高く、茎数は平年より多かった。以上のことから、現在の作況は良である。
6月20日	やや良	5月下旬は高温、少雨で干ばつとなり、生育期節は早まったが、生育量は抑制された。草丈は平年よりかなり短く、茎数は平年よりかなり多かった。以上のことから、現在の作況はやや良である。
7月20日	やや良	7月上・中旬は低温・寡照となり、登熟は緩慢となった。稈長はかなり短く、穂長は平年並で、穂数はかなり多かった。以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	やや良	成熟期は7月24日で平年並であった。子実重は平年比105%でやや多収となり、リットル重、2.2mm篩上率、および千粒重は平年を上回った。以上のことから、現在の作況はやや良である。
11月20日	やや良	播種期、出芽期はともに平年より2日早く、越冬前の生育は旺盛となった。雪腐病の発生は少なかったが、少雪時の葉先枯れにより起生期の茎数は平年より少なかった。以降の生育は良好であったが、5月下旬の干ばつにより生育は抑制され、茎数は多く、草丈は短くなった。出穂期は平年より6日早い5月30日であった。7月上中旬は低温・寡照となり、登熟は緩慢となったため、成熟期は平年並の7月24日であった。稈長は平年より短く、穂長は平年並、穂数は平年より多かった。リットル重、千粒重は平年より重く、2.2mm篩上率は高く、子実重は平年比105%で、検査等級は平年に優る1等であった。以上のことから、本年の作況はやや良である。

生育データ

品種名	きたほなみ			
	本年	平年	比較	
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)	9.20	9.22	△ 2	
出芽期(月日)	9.27	9.29	△ 2	
起生期(月日)*	3.26	4.9	△ 14	
出穂期(月日)	5.30	6.5	△ 6	
成熟期(月日)	7.24	7.24	0	
葉数(枚)	10月20日	4.1	3.3	0.8
	11月15日*	6.3	5.3	1.0
草丈(cm)	10月20日	23.6	19.3	4.3
	5月20日	50.5	46.5	4.0
	6月20日	75.7	91.6	△ 15.9
茎数(本/m ²)	10月20日	779	459	320
	11月15日*	1,513	1381	132
	起生期*	1,648	1800	△ 152
	5月20日	1,575	1,149	426
成熟期	6月20日	856	644	212
	稈長(cm)	70	83	△ 13
	穂長(cm)	8.8	8.6	0.2
	穂数(本/m ²)	825	639	186
子実重(kg/10a)	732	703	29	
同上対平年比(%)	105	100	5	
リットル重(g)	857	825	32	
2.2mm篩上率(%)	98.8	92.7	6.1	
千粒重(g)	43.6	40.1	3.5	
検査等級	1	2上	-	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成29年収穫(豊作)、28年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2) △は平年より早、少、短を表す。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/m ²)
9.6	4	緑肥クローバー	30	9.20	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	
S502	80	4	16	9.6	4	基肥
硫安	38	8				追肥(4/1)
硫安	19	4				追肥(5/30)